



## 第 1 章 羽幌町の環境の現状と課題



# 第1章 羽幌町の環境の現状と課題

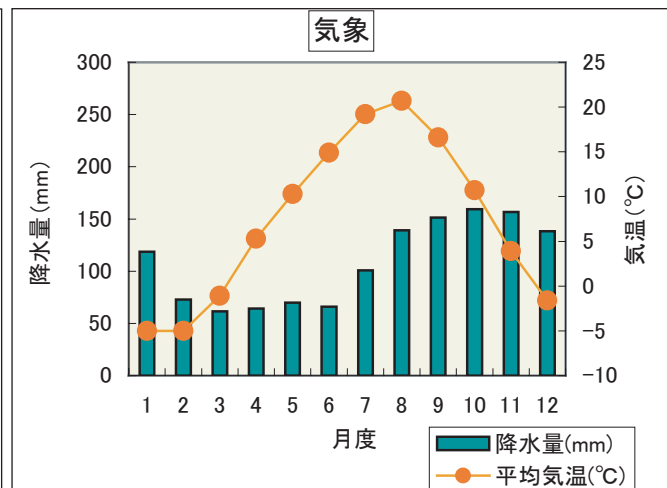
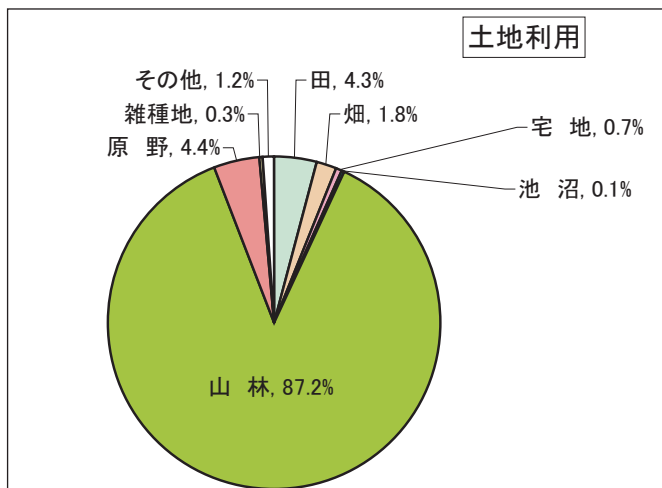
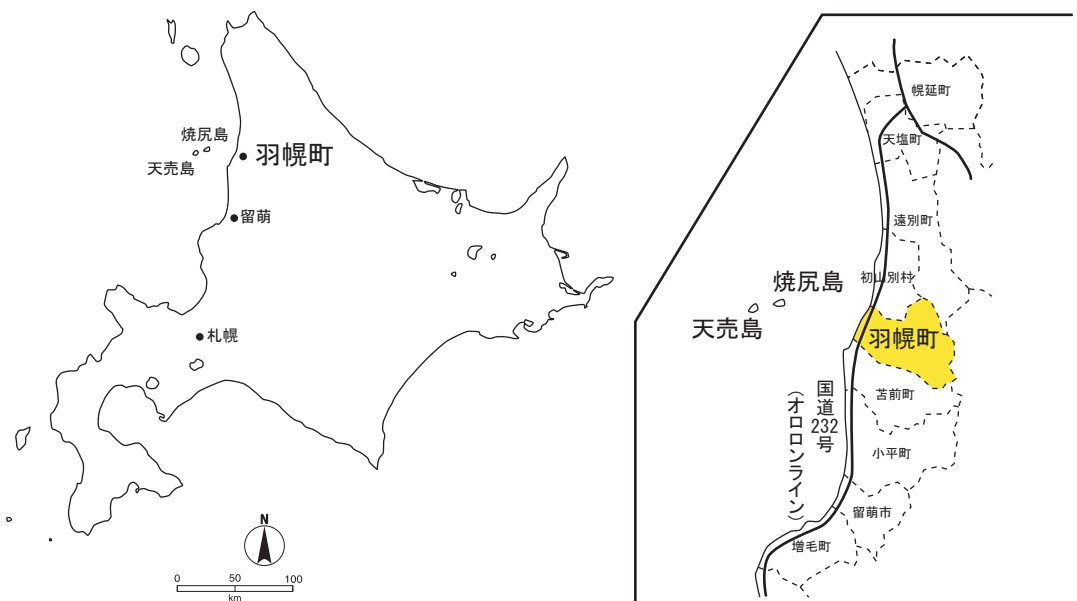
## 1 羽幌町の姿

羽幌町は、北海道の北部日本海側に位置し、道庁所在地の札幌市へ約200km、地域行政の中心地留萌市までは約50kmの距離にあります。

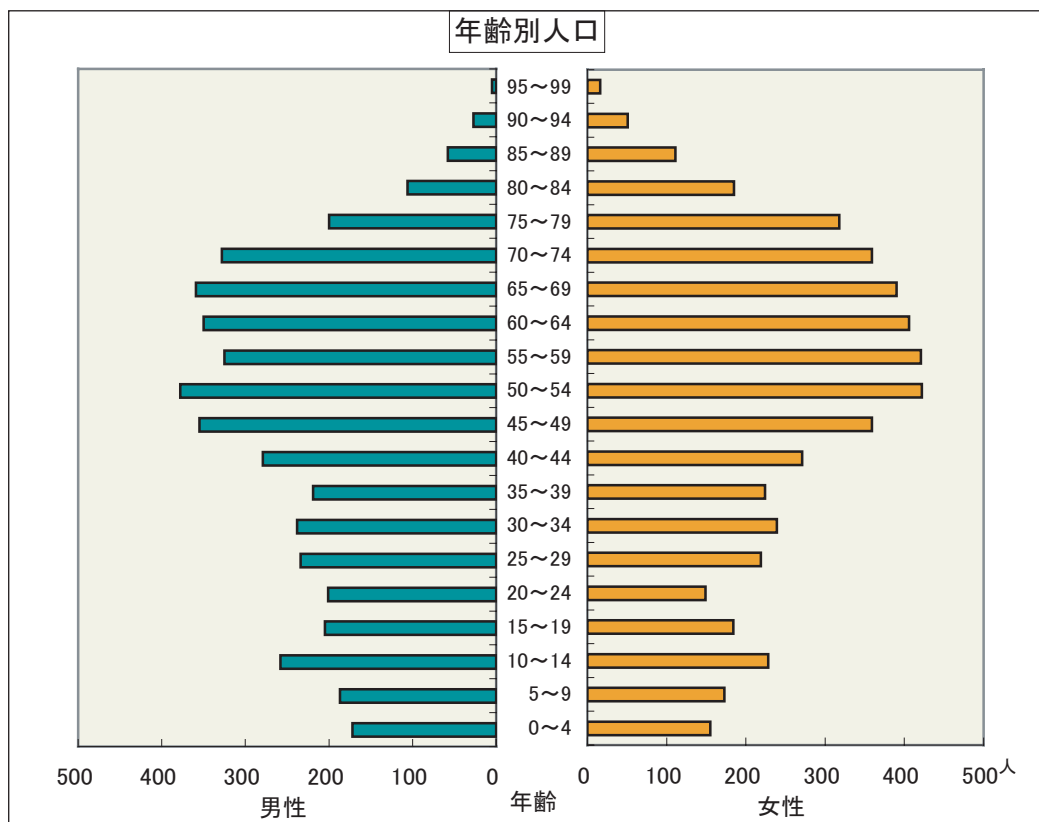
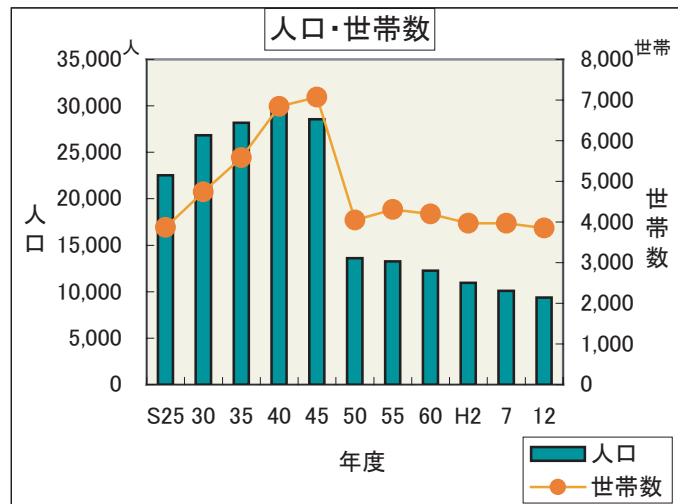
日本海沖24km沖には「暑寒別天売焼尻国定公園」の一部に指定されている天売島、焼尻島があります。

総面積472.49km<sup>2</sup>のうち山林が87.2%を占め、次いで田・畑が6.1%を占めています。

気候は、年間を通してシベリアから吹きつける季節風の影響で風の強い日が多く、夏季は温暖で春から初夏にかけて乾燥し、晩夏から冬にかけて多雨、そして冬季は湿潤寒冷で積雪が多く対馬暖流の影響で内陸部よりは温暖ですが、季節風に雪がともない、しばしば暴風雪となる日があります。



人口は8,948人、世帯数は3,989世帯（平成17年3月末現在）で、うち羽幌地区には8,176人、天売地区422人、焼尻地区350人で、人口の約9割が羽幌地区に集中しています。



### 羽幌地区 市街地

市街地は公共施設や商業施設が集まり羽幌町の中核として機能を果たしています。

また、サンセットビーチや羽幌温泉サンセットプラザ、羽幌バラ園など観光客が多く集まる地域でもあります。



### 羽幌地区 農村部

羽幌町の基幹産業である農業が盛んな地域です。水稻を中心に畑作、酪農が行われています。



### 羽幌地区 山林地域

羽幌町面積の9割弱を占める山林で、その8割強が国有林となっています。





### 天売地区

周囲12kmの小さな島で東側の海岸線に人口400人強の島民が生活をしています。

反対の西海岸は断崖絶壁がつづき、「海鳥繁殖地」として天然記念物に指定されています。4月から8月までは8種類の海鳥が繁殖しており、80万羽とも言われる海鳥の島となります。

島の産業は水産業が中心ですが夏季には3万人弱の観光客が訪れます。



### 焼尻地区

天売島とほぼ同じ周囲12kmの島で人口400人が東西の海岸線で生活をしています。

島の中央部には天然記念物の「焼尻自然林」がありイチイとミズナラを中心とする原生林が広がっています。

島の産業は水産業が中心で天売島と同じように夏季に観光客が訪れます。



## 2 羽幌町の環境・町民意識

### (1) 環境アンケート

羽幌町を取り巻く様々な環境の現況や、羽幌町民の環境への関心度を紹介します。

平成14年12月に羽幌町約4,000の全世帯と中学生、高校生、羽幌町を故郷とする札幌在住の方を対象に環境アンケート調査を行いました。また、平成15年7月～8月では観光客を対象とした調査も行いました。

#### ①身近な環境について

下記の身近な環境に対する評価を、5段階（満足、やや満足、普通、やや不満、不満）で回答していただきました。

ア 全体的な町の環境	ケ 鳥や虫や植物とのふれあいの多さ
イ 全体的な町の自然	コ 生け垣や庭などの緑の多さ
ウ 空気のさわやかさ・きれいさ	サ 公園の緑、街路樹の緑の多さ
エ 海、川、池の水のきれいさ	シ 山、川、海などの自然景観の美しさ
オ 海、川、池の水辺で多くの動植物が見られる	ス 町並みの美しさ
カ まわりの静けさ	セ 公園や広場などゆとりある空間の多さ
キ 住まい周辺の清潔さ	ソ 道路、街路の快適さ
ク におい（悪臭）の状況	タ 町民が気軽に利用できる公共施設の充実

#### 回答の概要

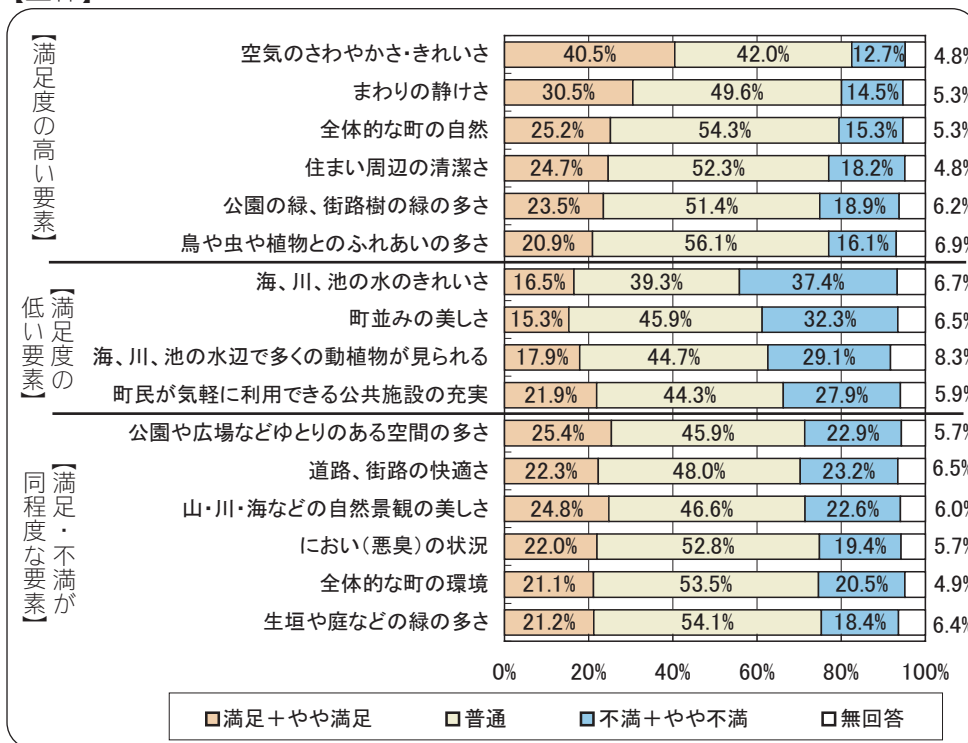
- ・満足度の高い項目は「空気のさわやかさ・きれいさ」、「まわりの静けさ」、「公園や広場などゆとりのある空間の多さ」、「全体的な町の自然」といった“自然環境”に関する項目でした。
- ・不満度の高い項目としては、「海、川、池の水のきれいさ」、「町並みの美しさ」、「海、川、池の水辺で多くの動植物が見られる」、「町民が気軽に利用できる公共施設の充実」といった、“水辺”や“町並み”、施設の利便性のような“生活”に関わる項目でした。

#### 回答者群別概要

- ・それぞれの回答者群ごとの全体的な傾向としては、出身者は満足度が高い回答をする傾向にあり、中学生は不満を示す回答傾向が強いようです。
- ・「空気のさわやかさ・きれいさ」については、町民、高校生、出身者では満足の傾向が強いですが、中学生については不満度が高くなっている点が、興味深い結果でした。

- ・中学生が満足している項目としては、「山・川・海などの自然景観の美しさ」でした。
- ・「海・川・池の水のきれいさ」、「海・川・池の水辺で多くの動植物が見られる」といった“水辺の環境・景観”に関わる項目についての不満度が高いですが、これは、農薬や生活排水、ゴミの不法投棄などによる水質の悪化に対する不安が現れたものと考えられます。
- ・出身者の回答において、「生垣や庭などの緑の多さ」、「公園の緑、街路樹の緑の多さ」といった“町並み”に関る項目への不満度が高いですが、これは、回答者自身が現在の居住地と比較した結果であると考えられます。

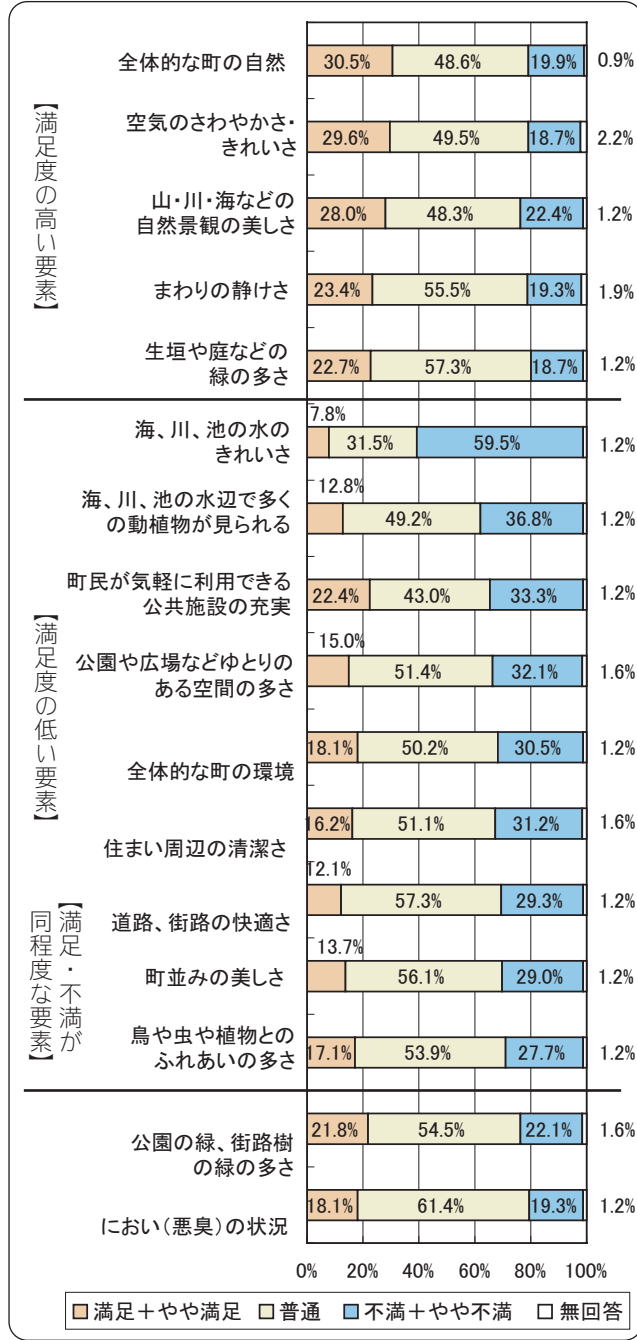
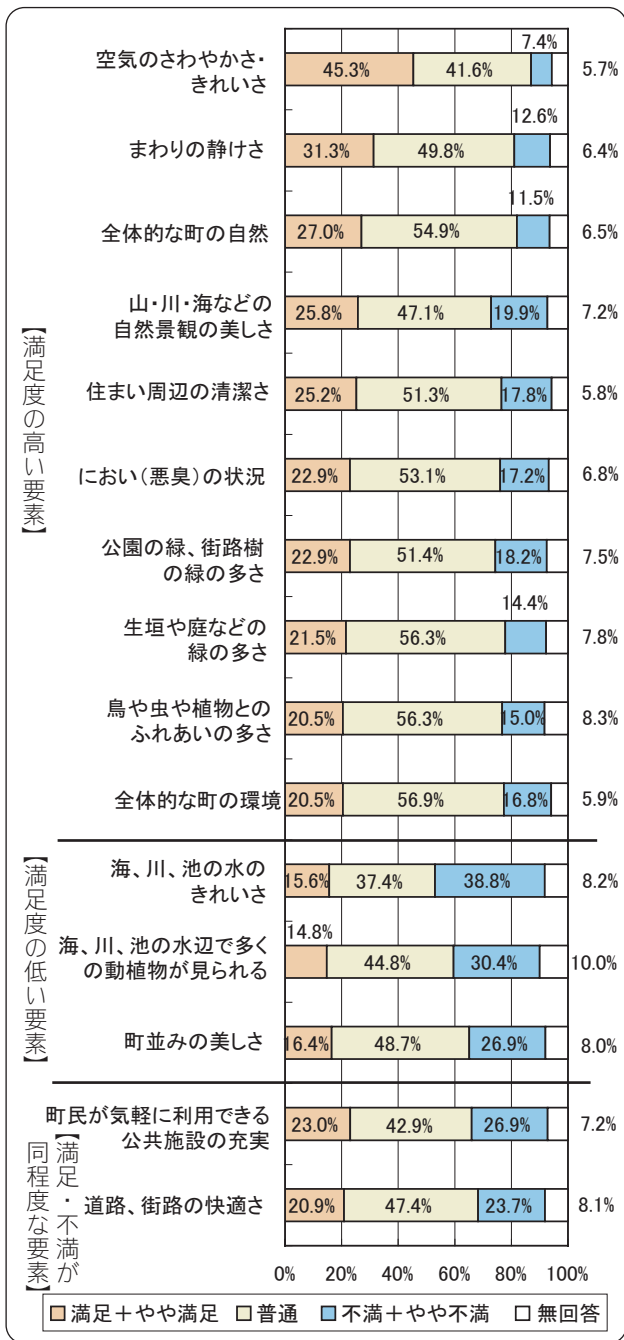
【全体】



- ・満足度の高いものは「空気のさわやかさ・きれいさ」、「まわりの静けさ」、「全体的な町の自然」で3割以上の回答者が満足しています。
- ・一方、「海、川、池の水のきれいさ」で約4割の回答者が、「町並みの美しさ」、「海、川、池の水辺で多くの動植物が見られる」、「町民が気軽に利用できる公共施設の充実」で約3割の回答者が不満を感じています。
- ・「公園や広場などゆとりのある空間の多さ」等については満足・不満の割合が同程度で、地域差や個人差が影響していると考えられます。
- ・全体的な自然や空気の良さのような“自然環境”に対しての評価を得ているが、海や川などの“水辺”や“町並み”のような“市街地の景観”、公共施設の利用のしやすさのような“生活環境”に関わる項目においての評価が低い傾向にあります。
- ・全体的に“市街地の景観”について評価が低いことは、建物の老朽化や閉店した店舗が目立つなどの理由によると考えられます。

【町民】

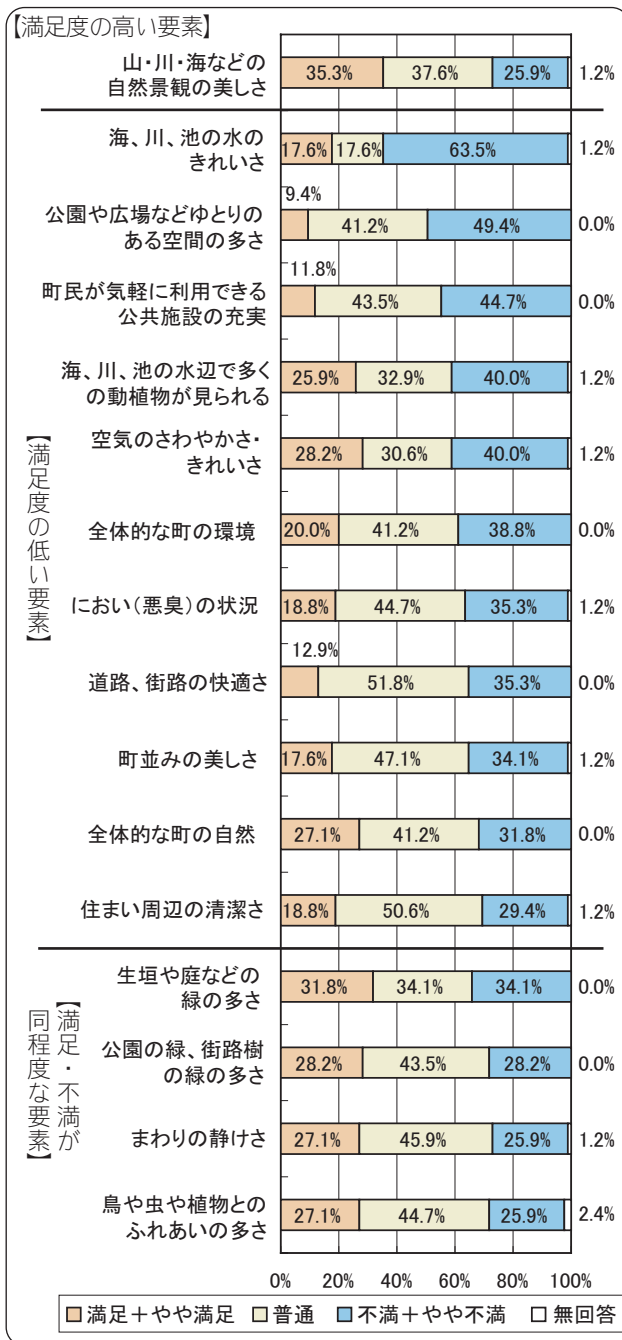
【高校生】



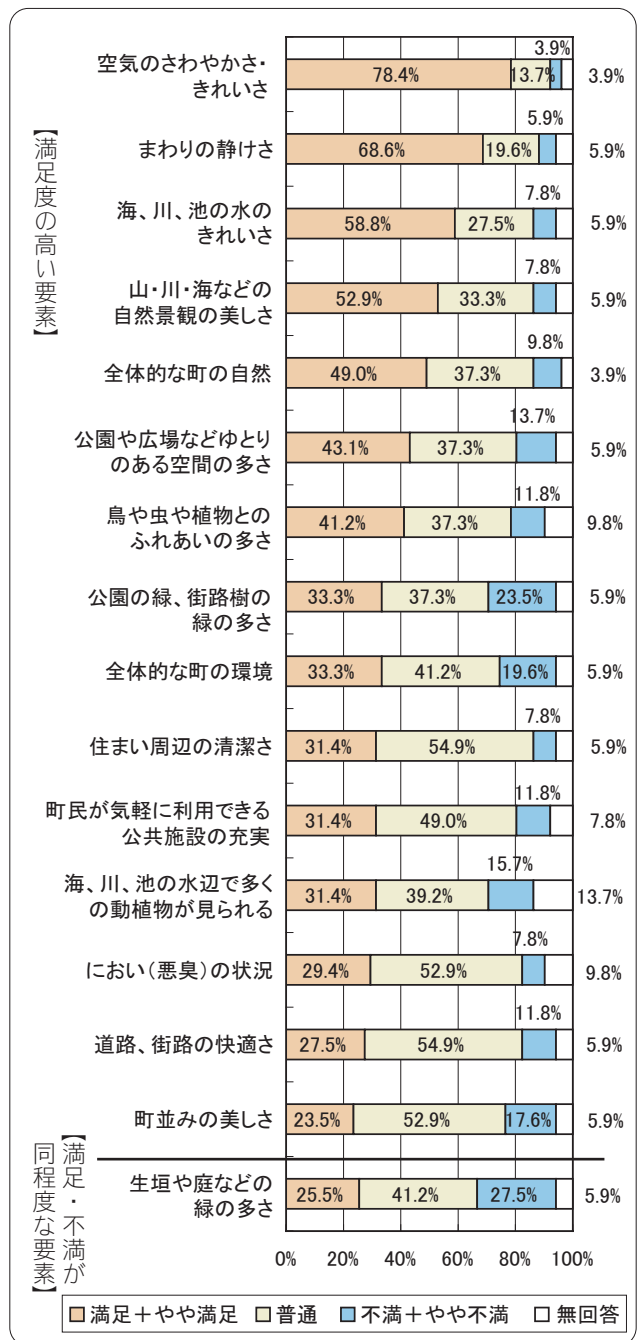
- ・それぞれの回答者群の全体的な傾向を見ると、出身者は満足度が高い回答をする傾向にあり、中学生は不満を示す回答傾向が強いようです。
- ・「空気のさわやかさ・きれいさ」は町民、高校生、出身者で、共通して満足している傾向が強いですが、中学生においては約4割の方が不満を感じています。
- ・中学生においてもっとも満足度が高いものは、「山・川・海などの自然景観の美しさ」で、約4割の回答が得られました。



【中学生】



【出身者】



- ・ 「海・川・池の水のきれいさ」については、町民、高校生、中学生において最も不満度が高く、また、「海・川・池の水辺で多くの動植物が見られる」についても不満度が高くなっていることから、近年の河川の水質汚濁やゴミの不法投棄に起因する“水辺の環境・景観”の悪化に対する不満があるものと考えられます。
- ・ 出身者において不満度の高いものは「生垣や庭などの緑の多さ」、「公園の緑、街路樹の緑の多さ」といった、“町並み”にかかわる部分で、アンケートに回答した出身者が在住する都市との町並み・景観との比較が影響していると考えられます。

## ②怖いと思う環境問題

下記の選択肢の中から、怖いと思う環境問題について3つ選んでいただきました。

- |                     |                    |
|---------------------|--------------------|
| 1. 水質汚濁（海・川）        | 10. 地球温暖化          |
| 2. 大気汚染             | 11. ダイオキシン問題       |
| 3. 地盤沈下や土壌汚染        | 12. 環境ホルモン         |
| 4. 騒音・振動・悪臭などの公害    | 13. オゾン層破壊         |
| 5. 家庭からのゴミの増加       | 14. 酸性雨の被害         |
| 6. 産業廃棄物処理問題        | 15. 資源やエネルギーの無駄使い  |
| 7. 森林・河川などの自然環境破壊   | 16. 身近な緑の減少        |
| 8. 動植物の減少           | 17. 歴史的・文化的まちなみの喪失 |
| 9. 水辺などの自然と触れ合う場の喪失 | 18. 下水道整備の不十分さ     |

### 回答の概要

- ・身近な環境問題として「水質汚濁」「森林・河川などの自然環境破壊」が、広域的な問題として「ダイオキシン」「オゾン層破壊」が認識されています。
- ・「身近な環境問題について」の設問に類似して、この設問においても「水質汚濁」に対する不安が現れています。

### 回答者群別概要

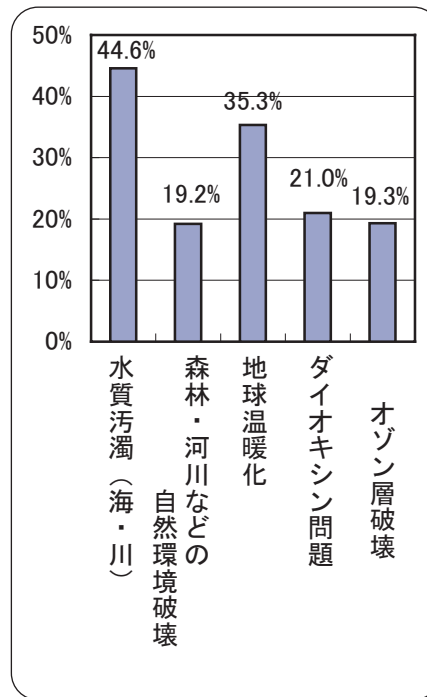
- ・「水質汚濁（海・川）」という身近な問題と、「地球温暖化」というグローバルな問題がどの群でも共通して挙げられています。

単純集計

【全体】 5,492件

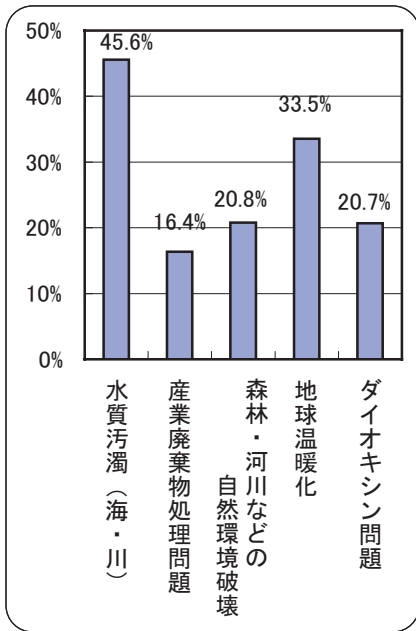
※複数回答

上位の項目のみ抜粋

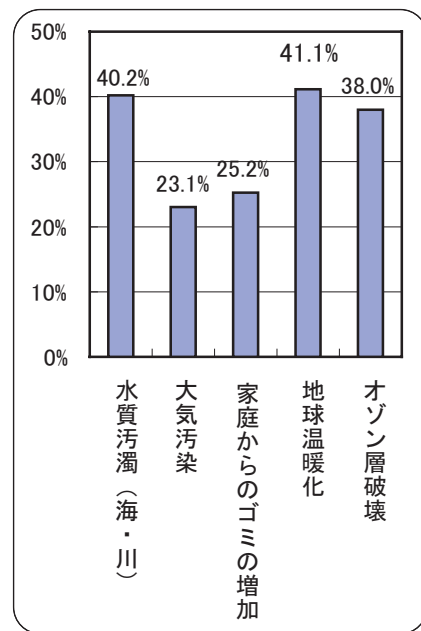


- ・ 「水質汚濁（海・川）」に対する懸念が最も多く、約4割でした。
- ・ 次いで、「地球温暖化」の回答は3割を超える回答でした。
- ・ その他、比較的回答が多かったものは「ダイオキシン問題」、「オゾン層破壊」、「森林・河川などの自然環境破壊」でした。
- ・ 「水質汚濁（海・川）」において多くの回答が得られたことは、旧羽幌川の水質汚濁や海岸などにおけるゴミの不法投棄を意識しているものと考えられます。

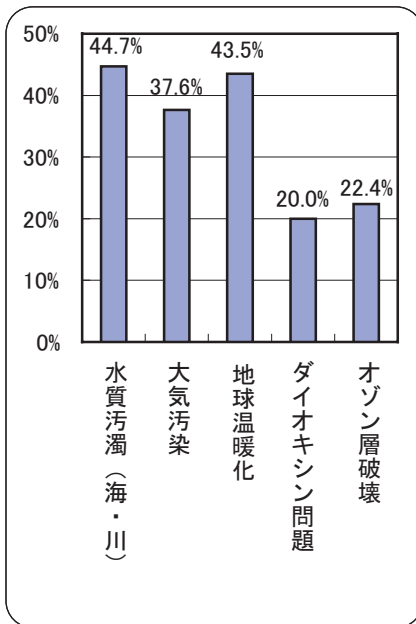
【町民】 4,067件 ※複数回答



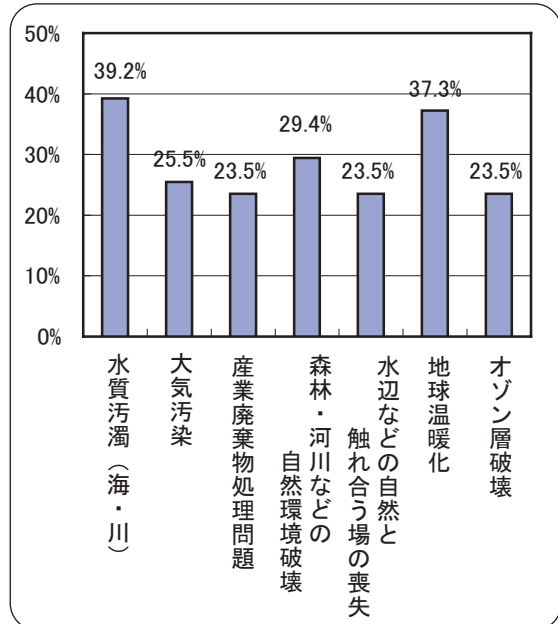
【高校生】 1,011件 ※複数回答



【中学生】 250件 ※複数回答



【出身者】 164件 ※複数回答

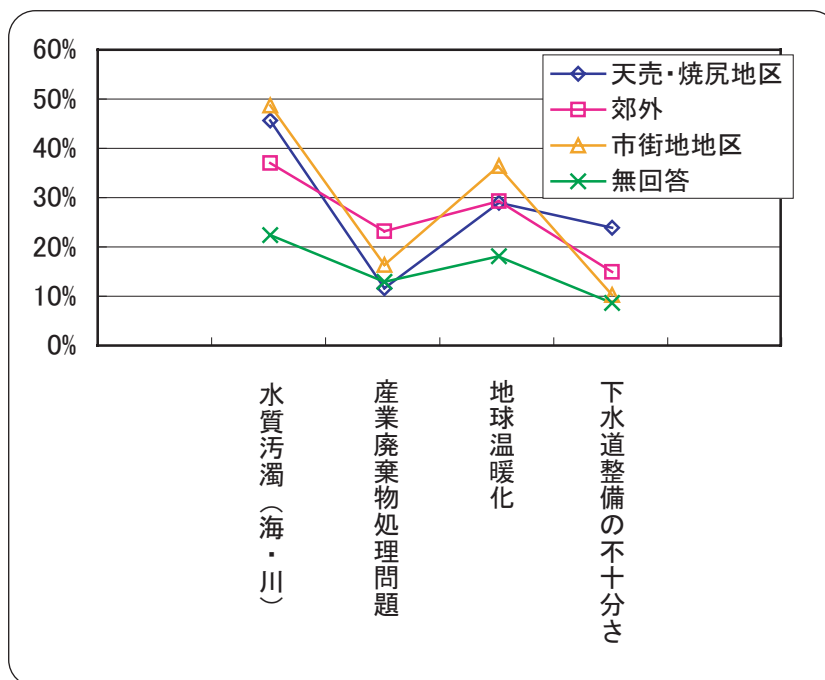


- ・ 町民、高校生、中学生、出身者のいずれにおいても「水質汚濁（海・川）」、「地球温暖化」において多くの回答が得られました。
- ・ その他に多くの回答が得られたものとして、高校生における「オゾン層の破壊」、中学生における「大気汚染」が、それぞれ約4割でした。

## クロス集計

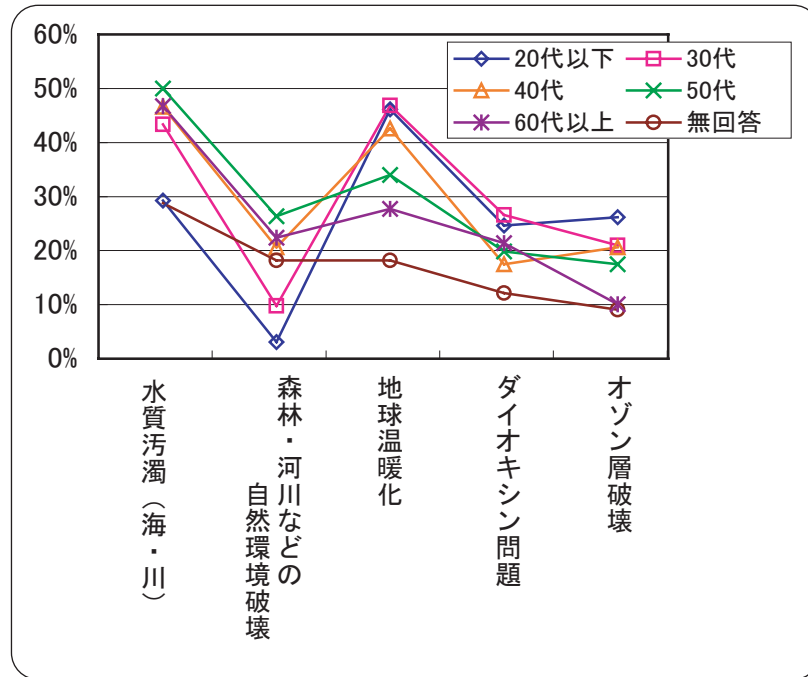
- ・地域別クロス集計については、「水質汚濁（海・川）」、「地球温暖化」は市街地、「産業廃棄物処理問題」は郊外、「下水道整備の不十分さ」については天売・焼尻地区において関心が高く、特に、郊外と天売・焼尻地区については不法投棄等に関する現状に対する不満が表れたものと考えられます。
- ・年齢別クロス集計については、「地球温暖化」、「オゾン層破壊」、「環境ホルモン」、「ダイオキシン問題」など、直接身近に感じにくい環境問題については比較的低い年齢層が、「水質汚濁（海・川）」、「森林・河川などの自然環境破壊」のような身近な環境問題については高い年齢層の関心が高い傾向があります。

## 【地域別】



- ・「水質汚濁（海・川）」、「地球温暖化」のいずれにおいても、市街地地区の回答割合が最も高い傾向がありました。
- ・「下水道整備の不十分さ」については、天売・焼尻地区においての回答割合が最も高く、現状に対する不満をうかがうことが出来ます。
- ・「産業廃棄物処理問題」については、郊外における回答割合が最も高く、山林への不法投棄などへの懸念が表れたものと考えられます。

【年齢別】



- ・ 全体において最も回答の多かった「水質汚濁（海・川）」については、30～60代以上については4割以上の回答でしたが、20代以下については約3割で、若い世代においての意識が低い傾向があります。
- ・ 次いで多くの回答が得られた「地球温暖化」については、40代以下で多くの回答が得られており、年齢層の上昇と共に回答は減少する傾向が認められるが、60代以上においても約3割の回答が得られました。
- ・ 「森林・河川などの自然環境破壊」については、40代以上が約2割の回答割合を示しましたが、30代以下は1割以下の回答となっており、年齢層による明確な差が現れた。
- ・ 「オゾン層破壊」については、20代以下の回答割合が最も大きく、年齢層が高くなるにつれて、回答割合が減少する傾向が認められます。
- ・ 「ダイオキシン問題」についても、概ね、年齢層の低い世代のほうが高い世代よりも回答割合が大きい傾向がありました。
- ・ 以上より、「地球温暖化」、「オゾン層破壊」、「ダイオキシン問題」のような、比較的新しく、直接身近に関わってこない環境問題については低い年齢層の方が高い意識を示す傾向にあります。
- ・ それに対して、「水質汚濁（海・川）」、「森林・河川などの自然環境破壊」のような身近な環境問題については高い年齢層の方が高い意識を示す傾向にあります。

(2) 資源・エネルギー等の現状

○電力使用

年度	H14	H15	H16
電力消費量(kWh)	44,254	44,522	44,819

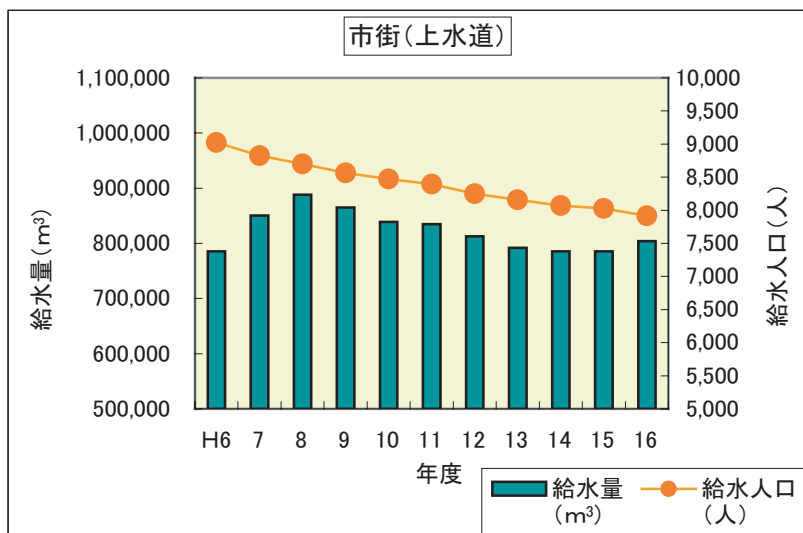
(北海道電力(株) 留萌営業所)

羽幌町での電力消費量は、微増状態にあります。

○水の使用

年度	市街(上水道)		天売(簡易水道)		焼尻(簡易水道)		曙(簡易水道)	
	給水量 (m <sup>3</sup> )	給水人口 (人)	給水量 (m <sup>3</sup> )	給水人口 (人)	給水量 (m <sup>3</sup> )	給水人口 (人)	給水量 (m <sup>3</sup> )	給水人口 (人)
H6	785,245	9,022	31,126	480	29,499	448	710	17
H7	850,723	8,825	31,715	439	27,905	434	694	17
H8	888,396	8,701	30,629	428	28,121	430	573	15
H9	864,840	8,566	29,406	420	25,939	423	569	12
H10	838,931	8,474	30,472	409	26,665	390	588	10
H11	834,906	8,396	30,032	401	26,076	379	652	10
H12	812,530	8,250	30,367	398	26,333	372	563	10
H13	791,787	8,157	30,461	422	23,242	367	503	10
H14	785,486	8,073	29,635	416	23,640	346	476	10
H15	785,271	8,026	29,241	416	22,288	334	510	10
H16	804,111	7,918	30,759	414	21,491	324	500	10

(羽幌町上下水道課)



給水人口は減少していますが、水道水の給水量はこの10年間では微増状態にあります。

○ごみの排出

年度	可燃ごみ(t)	不燃ごみ(t)
H6	3,793	443
H7	3,873	403
H8	3,889	380
H9	3,873	405
H10	3,816	417
H11	4,009	453
H12	4,340	554

年度	可燃ごみ(t)		不燃ごみ(t)		資源ごみ (t)	危険ごみ (t)	廃食用油 (t)
	生ごみ	一般ごみ	粗大ごみ	破碎ごみ			
H13	1,568	1,284	141		789	5	6
H14	1,303	1,322	59	125	994	5	6
H15	681	1,001	64	60	1,129	4	6
H16	605	1,099	217	90	1,123	5	5

平成13年度以降、ごみの分別収集が行なわれています。

○福寿川水質調査

年度	水温 (°C)	透視度 (cm)	pH	SS (mg/l)	COD (mg/l)	BOD (mg/l)	NH <sub>4</sub> -N (mg/l)	NO <sub>2</sub> -N (mg/l)	NO <sub>3</sub> -N (mg/l)	塩素 イオン (mg/l)	測定時期
H15	10.2	33	6.92	27.3	10.7	5.5	0.4	0.004	0.19	2,350	4月～翌1月
H16	13.3	38	7.12	37.1	13.1	4.8	1.0	0.012	0.10	4,297	4月～12月
H17	18.9	40	7.06	20.6	7.1	3.4	0.4	0.131	0.02	2,675	4月～9月

(年平均値)

年度によって測定時期が異なりますが、COD、BODのような水質の汚濁を示す指標は減少傾向にあります。



### 3 羽幌町の環境が抱えている課題

羽幌町の「めざす環境」を導き出すためには、まず羽幌町が抱える環境面の大きな課題を整理する必要があります。

ここでは、環境の現況を踏まえ「優れた自然環境の保全」「野生生物の保全（海鳥保護）」「身近な環境の保全」の3つの視点から羽幌町の抱えている課題を整理して「第2章 羽幌町のめざす環境」を導き、個別の課題については「第5章 地域別・事業別等環境配慮の方針」で改めて整理し、方針を定めるものとします。

#### (1) 優れた自然環境の保全

焼尻自然林<sup>④</sup>は、推定5万本のオンコ（イチイ）の原生林やミズナラ、イタヤカエデなどの広葉樹から形成される優れた自然林で、昭和58年に国の天然記念物に指定されました。ミズナラとオンコが複層林（二段林）を形成する優れた植生を示していますが、上層林であるミズナラ群生域が優勢となり、拡大しつつあります。また、自然林内のオンコは老木や立ち枯れ・倒木が多くなっており、今後のオンコ林の存続を考えると後継樹が少ないことが憂慮されています。

そのため地域の人々は車の通行を規制するなど、原生林の保全に努めています。天然記念物であり、国定公園の特別保護地区内のため枝打ちや伐採などの管理が出来ず、年々イチイの生息場所が高木広葉樹に侵食されています。

また、羽幌町の森林面積は行政面積の約9割を占めますが、羽幌地区には里山のように親しまれている山林はなく、身近な自然を活用できる環境を整える必要があります。

#### 課題

- ・ 貴重な植生を示す自然林を良好な状態で保全するために、様々な取り組みを行ないます。
- ・ 身近な自然に親しめる環境づくりを進めます。

<sup>④</sup> 焼尻自然林…現地案内板の説明文より

国指定天然記念物 焼尻の自然林

指定年月日  
昭和58年8月30日

指定の理由  
特別史跡名勝天然記念物及び史跡名勝天然記念物指定基準 天然記念物植物二（稀有の森林植物相）による

焼尻島は、羽幌港より海上24km離れた日本海に浮かぶ面積530haほどの島である。

この島の中央部東側にミズナラを主とし、ベニイタヤ、ハリギリ、ヒロハノキハダなどを交える広葉樹林が育成し、谷筋にはアカエゾマツを主とし、これにエゾマツを交える針葉樹林が発達した第一層を構成している。イチイ（オンコ）は、これらの林の第二層を構成し、林内一円に広く分布し、中には樹齢数百年と言われるものもある。また、上層木を欠く風衝地ではイチイがハイマツ状に発達しているところもあり、形態的にも興味深い。

この自然林の保存状態は良好で、また島嶼性気象条件下に成立したものとして学術上貴重であり、天然記念物に指定して保存を図る。



## (2) 野生動物の保護（海鳥保護）

天売島の西海岸は高さ150mを越える断崖絶壁が続き、これらの岩棚にはウミガラス、ウミウ、ケイマフリ、ウミネコ、ウトウ、ウミスズメ、ヒメウ、オオセグロカモメの8種類80万羽とも言われる鳥たちが繁殖する、素晴らしい自然があります。この天売島海鳥繁殖地は昭和13年（1938年）に国の天然記念物に指定されました。

しかし近年、ウミガラス、ケイマフリ、ウミスズメなどが急速に数を減らし、絶滅危惧種に指定されるまで激減しています。

この原因は色々考えられますが、餌となる魚種の減少や生息域の変動のほか、天敵のオオセグロカモメ、カラス、ネコ等による捕食や、漁業環境等の影響もあると考えられています。

また天売島周辺の海域は、ロシア極東地域からの石油などの物資の輸送経路となっており、海難事故による油汚染等の影響を受けやすい状況にあり、海洋汚染、漁業被害、海鳥被害に対する危険性が増しています。

### 課題

- ・ 海鳥の繁殖に影響のない観光のあり方を模索します。
- ・ 海鳥に影響のない漁業環境、漁法等の研究を行います。
- ・ 絶滅が危惧されている海鳥の天敵のオオセグロカモメ、カラス、ネコなどを増やす原因であるごみや産業廃棄物の適正な処理を進めます。
- ・ 多様な生態系の中の海鳥を理解しながら、海鳥を守る考えを広めるよう努力します。
- ・ 急激に数を減らしている海鳥を増やす事業を行います。
- ・ 海鳥の生息できる海洋環境を取り戻します。
- ・ 海難事故等による海洋汚染への対応の研究を行います。




### (3) 身近な環境の保全

#### 子どもの目から見た課題

環境アンケートの回答のうち、中高生の回答を集約し、子どもたちの目から見た課題をまとめました。

- ・一人ひとりが環境に対して責任を持ち、自然のことを考えた行動により荒廃を食い止めます。
- ・自然を守りよりよい環境にするために、町民が一体となり、まちを汚さないように努力し協力します。
- ・自然を守る重要性を体験させ、良い環境にしたいという意識を高めます。
- ・現状を理解した上で、環境悪化が未来にもたらす影響を皆で考え活動します。
- ・子どもがのびのび出来る所を作り、自然の大切さを知ることができるよう、自然とふれあう機会を増やします。
- ・物を大切にし、ごみを増やさないようにし、リサイクルできるものはリサイクルします。
- ・町民がごみ問題に関心を持って生活します。
- ・ごみの分別をしっかりと行い、ごみ分別収集の効果を検証します。
- ・羽幌町の自然環境の変遷を町民に伝えます。
- ・羽幌町の良さをもっと町民に訴えます。
- ・もっと森を大切にし、身のまわりに植物を増やします。
- ・直接的に町民へ呼びかけ、悪い環境を作っている人を減らします。
- ・未来のことを考えて環境を守ります。
- ・近所の迷惑にならないように騒音に気をつけます。
- ・学校・職場などで自然環境教育を積極的に行います。

子どもたちにとっては、一人ひとりの自覚と協力、守るべき自然を知るための体験の機会と場、そして現状を知るための機会と知らせる努力、教育を積極的に行うことなどが課題となっています。



## 大人の目から見た課題

大人の目から見た課題を、環境アンケートの回答と環境計画町民会議の話し合いの中から集約しました。

- ・身近な自然の保全を行います。
- ・環境保護は、未来へつなげる町の財産です。
- ・自然環境の悪化について考える必要があります。
- ・野生動物の生息環境を守ります。
- ・家庭・学校における自然環境教育やしつけが大切です。
- ・河川や海を汚さないようにすれば、漁場も豊かになります。
- ・緑化と漁業には関わりがあるので、もっと植樹をし、長期的視野で山林の回復に取り組みます。
- ・子どもの頃、川の水量が豊かであったが、今は寂しい川だと思えます。
- ・昔は水路にドジョウや貝、浜にはハマナスやボウフウ、川にはザリガニなどがいたので、これらを取り戻し昔の姿に戻すことを望みます。
- ・自然保護意識を喚起するための事業・行事を開催します。
- ・町民一人ひとりが緑化活動を行ったり「自然保護人」であるといった意識を持つことが必要です。
- ・自然と共に過す環境をめざします。
- ・子どもたちが自然とふれあえるような公園が必要です。
- ・積極的にゴミ問題や環境問題に取り組みます。
- ・不法投棄などに対する指導、監視体制の強化が必要です。
- ・自然に還元されるものの使用や、ゴミの分別について町民が理解し、自ら行動出来るようになることが必要です。

大人にとっては、自分が子どもの頃の昔の風景や自然を取り戻したいという意向が見られます。そのために、身近なところで自然を感じる公園や学校・職場での環境教育の充実強化が求められています。



### 将来の子どもたちのための課題

これから生まれて来る未来の子どもたちにとって、空気、河川、海、土壌などが汚染されていないか、また他の動植物にとっても、健全な生態系や資源が残されているか、大きな懸念があります。

従って、豊かな自然環境を守り、有害物質による環境汚染を防ぐと共に、**環境負荷<sup>①</sup>**の少ない**循環型社会<sup>②</sup>**を構築して地域から地球環境の保全に貢献し、安全に暮らせる環境の地球を引き継ぐことが課題と言えます。

- ・有害物質に汚染されていない空気、水、土、海を将来へ引き継ぎます。
- ・自然と共生する伝統的な歴史や環境保護を文化として将来に引き継ぎます。
- ・羽幌町の身近な自然や多様な生き物が織り成す生態系を守り、将来にわたってまちづくりと自然保護の調和を図ります。
- ・身近な自然や守り続けなければならない自然を観察できる場所を、将来の子どもたちに確保します。
- ・省エネルギー、ごみ排出量の抑制、資源の再利用・再資源化などの循環利用を進め、環境への負荷の少ない地域社会をつくります。
- ・地球環境問題の改善に羽幌町として貢献します。

① 環境負荷…『人の活動により、環境に加えられる影響であって、環境の保全上の支障の原因となるおそれのあるもの』(環境基本法)。フロンなどのように、それ自体は無害でもオゾン層破壊を引き起こす原因となるようなものも含まれる。

② 循環型社会…

- ・ごみが発生しにくい社会
- ・リサイクルしやすい社会
- ・ごみが適正に処分される社会

↓

- ・天然資源の消費や環境負荷が低く抑えられている社会

